昭和39年11月10日第三種郵便物認可　昭和41年4月5日国鉄東局特別扱承認雑誌第2343号　昭和43年8月1日発行　第5巻第9号通巻第49号（毎月1回・1日発行）

月刊漫画 ガロ

No.49
1968
8月号

カムイ伝㊸

赤目プロ作品
白土三平

（前回まで）

カムイ伝㊸

当時にあっては、全国のどこかしらに必ずといってよいほど絶えず災害が発生していた。そして、それらは多くの場合、そのまま凶作へと結びつき、低い生産性と封建支配の下では直ちに飢饉へと直結するものであった。従って、そのために多くの人々の生命は失われ、広大な田畑は荒地と化したが、しかし、一方、商人たちにとっては、逆にこのことが利潤追求の恰好の餌となり、彼らをしてその行動をいっそう活発化させたのであった。しかし、また、それを促し、彼らをその権力によって擁護したのは、ほかならぬこれら商人の商品経済に依存しなければならなかった封建領主であった。

江戸の大火だけに限っても明暦から三度を数え、木材の需要は年々急増し、これが飢えたハゲ鷹どもの好餌となった。**日置藩**においても、**蔵屋**にとって替った藩御用商人**大蔵屋**のとりなしで領内森林の伐採権を得た材木商**多仁屋**は、莫大な運上金を藩に差し出すことによってこの営業に関する一際の権限を与えられていた。すなわち、全領内の有望山林への立ち入り、その作業に必要な労働力として夫役による百姓の動員等をその権限において許されたのである。こうして、藩権力の庇護と御用商人のうしろだてによって多仁屋は支えられ、他方、そうすることで藩及び大蔵屋は莫大な運上金とピンハネによる利益を見返りとして吸い上げることで三者は相互に利益を保証する関係にあったが、表面はともあれ、この陰にはそれぞれ狡猾な計算と策謀とが渦巻いていたのである。つまり、大蔵屋はこの商いがそう長続きするものではないことを読みとっていたのである。なぜなら、夫役によって百姓を動員し、彼らを酷使するなかで、彼らの不平、不満による反発は必須であること、また全領内の有望山林といえどもその伐採量には限りがあること、さらに、利益の集中化は必ず他において著しい金づまりを招くに至ることを予見していたのである。であればこそ、そこに至っての恐慌と反発の矢面に多仁屋を立たせ、彼を犠牲にすることで自らは無傷を貫くことを策したのである。とうぜん、それは藩にとってもまた得策には違いなかった。ただし藩にあっては、その間においてさえ片時も忘れなかったことは、採木作業にあたる百姓の監督役として血深、夙谷の非人を採用したことに見られたように、彼らが機会を逃さず差別政策の強化と被支配者側の分裂を策すそのことであった。

折しも、**竜之進**の率いる野武士の群団が多仁屋を襲ったことで、先の大蔵屋の予見があたかも実証されたかに見えはしたが、実は、この**木の間党**と名乗る一党は、かつてこの地一円を支配していた豪族が、日置藩の移封と同時に強いられた服従に反抗して追放された生き残りの者たちの集まりであった。彼らの目的が、日置領主の悪政に抗し、かつての支配の地を取り戻すことにある点で、ここに一族を悉く討ち果たされ天涯孤独の身となった竜之進のそれと共通し、彼をしてその一党に身を投じさせたものであった。また、この目的のために、彼らは領民を味方につける方向で、命をかけて彼らの不満、不安をとり除くべく努めたのであり、先に木の間党が多仁屋に押し入り、巻き上げた金品を農民らに分配した事情も、ここに明らかなわけである。

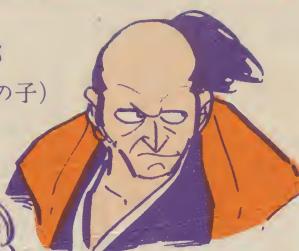
ともあれ、この木の間党の行動が活発化するにつれて、藩でもこれを見逃し得ずその対策に迫られたが、**一馬**による百姓娘**アヤ**に対する凌辱が後に木の間党を陥れるための陥穽につながるのである。ただ、ここで注目されるのは、かつて一馬が単に捨て犬であった時に同じ百姓娘を汚しながら彼が権力を帯びなかったことによって娘の反応が死をもって応えたに反して、いま娘は恋人を裏切り、大人たちは木材伐採の夫役を免除される恩典のためには、女房をさえ武士の狼籍の下に放つそのことであった。一方、アヤの恋人によってこのことを知らされた木の間党は、ふたたび一馬とそのとり巻きの武士らが夜中アヤを訪れたところを急襲するが、それを待ちかまえていたのは**玄蕃**らの率いる騎馬兵力及び鉄鉋隊であった。こうして、いまは無限流の術者に生まれ変った一馬、またあの玄蕃と竜之進はまたしても対決を迫られることになったが、果たしてこの危機を逃れ得るものだろうか……。

また、こうしたなかで何かしら不吉なことの到来が刻々と近づきつつあるが、果たしてそれは何なのか……？

月刊漫画 **ガロ** 八月号 目次

表紙絵・白土三平

赤目プロ作品　白土三平

登場人物

正助(百姓元下人)
ナナ
(カムイの姉)
一太郎
(正助の子)
横目(非人頭)
カムイ(忍元非人)
ダンズリ(正助の父)
苔丸(非人・元玉手村百姓)
キギス
(横目の下人)
サエサ(横目の娘)
手風(公儀隠密小頭)
ゴン(若者組の中心人物)
領主(日置領)
城代(三角重太夫)
ト伝
(公儀隠密の一人)
竜之進
木の間党主領
元藩次席家老
遺児
五郎(百姓)
アケミ
(五郎の妻)
大目付(橘軍太夫)
大蔵屋
(藩御用商人)
一角(元藩剣法指南)
シブタレ(タレコミ屋)
玄蕃(目付の弟)
多仁屋(材木問屋)
右近(浪人)
小六
(狂人)
一馬(目付の子)
夢屋
(商人元流人)
赤目(抜忍)
アテナ
(剣客の娘)